

## 定期報告

2011年5月19日

天候:晴れのち曇り 温度:室内22°C 室外14°C(午前7時)

湿度:40% 風:微風

放射線量:0.10  $\mu$  Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 朝:ご飯、納豆ネギ入り、納豆たまご、ウィンナー、グレープフルーツ

昼:炊き込みご飯、豚南蛮そば、りんご、りんごジュース

夜:ご飯、もやしねぎ味噌炒め、マーボーキャベツ

ナスとトマトのスープ、牛皿

氏名:(薬剤師) 西村宜朗

体調:良好

行動日誌

06:00 起床

07:00 朝食

08:00 朝のミーティングと近隣散策。すれちがう高校生の挨拶がすばらしい。

他の避難所に比べ大槌高校の治安が良い原因は学生と生活をともにしている部分にも原因があるのだろう。

08:45 救護所の朝のカンファレンス。

昨日の対策会議の内容を伝達。また、保健師、避難所代表へ救急箱の運用について相談。日中は問題ないが夜間の管理など問題点の把握。あとで自治副会長とも相談することになった。

09:00 診療開始

10:00 昨日の視察データをもとに新しい地図を作製

11:30 午前診療終了

12:00 昼食

13:00 午後診療開始

14:00 石山薬剤師、葛西総務担当は曾我看護師と共に城山体育館救護所、吉里吉里の診療所の視察

16:00 午後の診療終了

16:30 看護師2名と釜石対策本部のカンファレンスへ

17:00 カンファレンス終了後、今後の大槌町の医療方針について説明があった

18:00 入浴

19:00 大槌高校帰着

19:30 夕食、歓談

22:00 就寝

## 避難所への救急箱設置について

薬剤師、保健師、避難所の代表 3 者で話し合った結果、日中は避難所の代表者が管理し夜間は被災して避難している町内会副会長に任せることになった。使用の際は、医療チームが残っている間は薬剤師または保健師に相談して使用するよう申し合わせた。

## 災害対策会議より

災害対策本部では全戸調査に近い状況で町民の健康調査をおこなってきた。

その結果、近いうちに医療は本来の体制に復帰できる見通しと判断した。

青森県医師会が入っている大槌高校救護所に関しては、予定が出ている6月10日まではお願いしたく、その後は医療団による継続診療はおこなわないことを考えている。

足が不自由など他の医療機関への受診が困難な患者については、再開した地元医師へ往診の要請をおこなっていく。

沖縄県医師会が入る城山体育館、大阪府医師会が入る寺野体育館は5月いっぱい医師会は撤退、その後は日赤が引継ぎ6月中旬まで巡回をおこなうようだ。

6月中旬には大きな避難所での医療団のボランティアは終了する見通しのようだ。

広報や回覧板などが未だに再開してなく、医療機関の再開や医療団の撤退のお知らせは、避難所内での告知と個別訪問している保健師による情報伝達手段しかないようだ。

医療機関の巡回バスについても対策本部から町には再三申し入れをしているのだが、路線バスとの競合などの問題点があり、役場から路線バスで精一杯の返答が来ているらしい。

市長が不在の大槌町では、役場機能の復旧がなかなか進まず、さまざまなボランティアが撤退した後の状況が不安視される。

各方面から支援され集まった救護所の医薬品に関しては、未開封品は薬剤師会が管理し、大槌病院等に寄付するようだ。開封品はすべて廃棄となる予定である。大槌高校救護所分は量が多いため、撤退時の回収・移動を自衛隊に協力要請する予定。

本日は5月いっぱい期限の切れるインフルエンザの検査キットを対策本部へと引き渡した。インフルエンザが発症した地区で活用してほしかったが、十分に在庫があり、その地区でも期限が切れそうな在庫が多いらしい。災害医療としては例外的に長期ともいえる支援ではこんな問題も起きているようだ。

本日感じた問題点は、行政機能の復旧が思うように進んでいないこと。撤退期の混乱も含め、長い目で見ると役場の復旧なしに町の復興は難しく思う。いろいろな専門職のボランティアが入りサポートしている中、復興に向けて進むべき行政が機能しないのは悲しい。

氏名:石山 郁弥(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

06:00 起床

07:00 朝食

08:00 周辺環境確認、薬局チームミーティング

08:45 藤川医師チームと合同でカンファレンス

09:00 午前診療開始

11:30 午前診療終了

12:00 昼食

13:00 周囲の病院などの医療機関の視察、薬の配達

16:00 大槌高校到着、診療に参加

16:30 診療終了、夕食準備

17:00 買い出し

17:30 夕食準備再開

19:30 夕食

#### 近隣医療機関の視察

本日も周辺の避難所、医療機関を視察し、患者様へ情報提供を行った。避難所によってそこにいる人々の雰囲気が大きく変わることには驚いた。どの避難所でも明るい雰囲気の出る生活が出来るように改善が必要だと感じた。

大槌高校救護所を受診した患者様の希望で薬の配達を行った。その方は自宅が被災し、親戚の家に住んでいるとのことだった。住所を伺いカーナビで検索し、訪問したところ診療を再開している医療機関から徒歩2, 3分の距離だった。薬の説明を行った後、出来るだけ近隣の医療機関へ受診するようにお願いした。

#### その他

前のチームが残してくれたバス路線の情報を実際に避難者の方に見てもらい意見を伺った。字が小さいとの意見があったので大きめの字で記載。周辺医療機関の情報と共に掲示し、わかりやすいものに変更する予定。

救護所の存在が、避難者の方々にとって、身近に受診でき、頼りにされていることはうれしいことだ。しかしながら、大槌高校の青森チームも撤退に向けて、依存されすぎることはいけないことなのかもしれない。

廊下で高校の書道部が、総体に使う旗に書いていた文字に大きく心を動かされた。

「笑顔・感謝・前進」、今の高校の気持ちがよくあらわれている3つの言葉だと感じた。いつでも私たちに明るく声をかけてくれる高校生、職員のみなさん。私たちもその声を励みに支援を頑張っているのだと思う。

葛西豊誠

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

7:00 朝食

8:00 ミーティング

8:45 診療前カンファレンス

9:00 診療開始、掃除開始

10:00 昼食準備

11:30 藤川医師チームと昼食

13:00 病院、薬局視察 葛西、石山薬剤師、曾我看護師

16:00 大槌高校着、夕飯準備

17:00 買い出し

17:30 夕食準備再開

19:30 藤川医師チームと夕食

「今日は田植えの手伝いにいってくるんだよ」

「明日は釜石に仕事しに行くんだよ、晴れるかなー」

「わたしは毎年、家の前に畑あってねー。トマトやナスとかいろいろ育ててるんだけどねー」

青森からは「頑張っ！」とメールや電話があります。

自分は大槌高校救護所でなにを頑張ればいいのか。

何をしたら支援になるんだらう。

お昼のポテトサラダのジャガイモをレンジで柔らかくし、つぶしながら考えていたら、玉ねぎを切っているわけではないのに涙がでてきた。

夕方買い出しに近くの出張販売所へ行った。

佐藤総務と行ったときは、段ボールで陳列していた商品が普通のスーパーとおなじ状態になっていた。

直接の支援は自分にはできないかもしれないが、医師、看護師、薬剤師のサポートで、間接的な支援を頑張る。